

Self Introduction

自己紹介

WARM-UP READING

日本語を参考に、CDを聴いて()内に適切な語を入れなさい。

CD TRACK 1

Fellow students! Let me (1) myself. My name is Sato Keiko and I come from Sakai, Osaka Prefecture. I (2) from Minami High School but failed last year's college entrance exams. I **should have studied** harder in my high school days. I chose this university because I like the school atmosphere. I'm very happy to be with you here.

My (3) is playing the electric guitar and I hope I can take part in the popular music (4). Someday I hope to perform rock and roll on the stage with my boyfriend. That's my dream. My father, however, is always complaining that I **should not be** so crazy about music but (5) my attention on my studies. Since I am no longer a child, I **ought to be** responsible for what I do. Gather roses while you may. Everything's coming up roses. Thank you very much for your attention.



みなさん。自己紹介いたします。名前は佐藤恵子です。大阪の堺市出身です。南高校を卒業したのですが、一浪してしまいました。高校時代にもっと勉強しておけばよかったです。校風が気に入ったのでこの大学を選びました。みなさんと一緒になれてとてもうれしいです。

趣味はエレキギターを弾くことで、軽音楽のサークルに入れば良いなと思っています。いつかボーイフレンドと一緒にステージに立ってロックンロールを演奏したいわ。それが夢なの。でも、父はいつも音楽にばかり熱中しないで勉強に集中しなさいってうるさいの。もう子どもじゃないんだから、自分のことには責任をもつわ。「楽しめる間に楽しむ、若い時は二度ない」って言うでしょ。そしていま、何もかもうまくいっているのよ。ご静聴ありがとう。

Notes

「～出身である」come from～ 「一浪する」⇒「昨年の試験に失敗する」(英米の高校生は「浪人」してまで特定の大学をめざすことはほとんどない) 「校風」school atmosphere (長い伝統の末に確立された校風はschool traditionともいう) 「～に参加する」take part in～ (=participate in～) 「もう～ではない」no longer～ 「《ことわざ》楽しめる間に楽しむ、若い時は二度ない」Gather roses while you may. (cf. There's no time like the present. 今ほど良いときはない【今しなさい】) 「《口語》(思ったよりずっと)うまくいく」come up roses

GRAMMAR & PHRASES

1. 「～すべきだ」(should + 原形), 「～しておけばよかったのに」(should have + 過去分詞) の表現

I *should not be* so crazy about music but [*should*] *concentrate* my attention on my studies.
(音楽にばかり熱中しないで勉強に集中すべきだ)

I *should have studied* harder in my high school days.
(高校時代にもっと勉強しておけばよかった〔のにしなかった〕)

- ▶ 「～すべき」はought to + 原形, 「～しておけばよかった」はought to have + 過去分詞でも表現できる。また, 「～すべきではなかったのに〔してしまった〕」はshould not have + 過去分詞, またはought not to have + 過去分詞。

(a) I *ought to* (= *should*) *be* responsible for what I do.
(自分のすることには責任をもつべきだ)

(b) He was late for the exam. He *should* (= *ought to*) *have left* home earlier.
(彼は試験に遅刻した。もっと早く家を出ておけばよかったのに)

(c) I *should not* (= *ought not to*) *have eaten* between meals.
(間食をすべきではなかったのに)

2. 英語のことわざ

Gather roses while you may. (楽しめる間に楽しみ, 若い時は二度ない)

- ▶ スピーチでは適度にことわざを入れるのが効果的だ (✍ WRITING CLINIC 1 参照)。日本のことわざと比較対照すると, それぞれのお国柄が出ておもしろい。

(a) Where there's a will, there's a way.

(意志〔やる気〕があれば, 必ず方法は見つかる)〔日本では「精神一到何ごとかならざらん」〕

(b) A rolling stone gathers no moss.

(ころがる石には苔がはえない)〔意味は「職業を変えてばかりいる人には金は貯まらない」, 「たえず恋人を換える人には本当の愛は得られない」など。ただし、アメリカでは「たえず活動している人はいつも清新だ」と良い意味でも用いる。〕

WORD BANK

「国立(公立/私立)大学」 a national (public/private) university 「短期大学」 a junior college
「(大学の)1年生」 freshman (または fresher), 「2年生」 sophomore, 「3年生」 junior, 「4年生」 senior
「経済学部」 faculty of economics 「教育」 education 「工学」 engineering 「前(後)期」 the first (/second) semester 「科目を履修する」 take (/study) a subject

EXERCISES

A 日本語に合うように,()内に適切な英語を1語ずつ入れなさい。

1. 約束は守るべきだ。

You () () your promise.

2. 僕らの大学にだって欠点はある。そんなささいなことで不平を言うべきではない。

Even our () has some defects. You () not () of such a trifle.

3. その本を買っておけばよかったのに。

You () () () the book.

4. 理科と数学の両方に興味を持っておくべきだった。

I () to () been interested () both science and math.

5. レポートを仕上げているうちに当然のはずだ。一か月も前に出したのだから。

You () () () finished the report, for I assigned it to you one month ago.

B 日本語の意味になるように,()内の英語を並べかえなさい。

1. 彼女は何回かこの大学に来たのだから, 道に迷ったはずがない。

She (way / lost / her / have / can't), for she (several times / has / to this university / come).

2. 本を借りる人は, 1度に5冊以上の館外持ち出しは許されません。

Borrowers (the library / more than / of / may not / five books / take out) at a time.

3. 彼は辞書を教室に忘れてきたかもしれないと言った。

He said (his dictionary / have / he / the classroom / might / in / left).

4. 困っているときの友は、真の友である。〔困っているとき=必要なとき〕

(need / is / indeed / a friend / in / a friend).

5. よく学びよく遊べ。〔勉強ばかりして遊ばないとジャックはだめな子になる〕

(dull / Jack / a / no play / all work / and / make / boy).

WRITING FOR COMMUNICATION

A 下線部を英語に直しなさい。

A: 初めまして。中村洋子と申します。経済学部の1年生です。 よろしくお願ひします。

B: こちらこそよろしく。僕は教育学部の3年生で、数学専攻です。

A: 前期はどんな科目を履修すべきなんですか。

B: まず語学2つと、必修科目を優先すべきだよ。ところで、この大学の校風は気に入った？

A: はい。友だちをたくさん作って、楽しめる間に楽しもうと思います。

B 英語で自己紹介をしてみよう。

WRITING CLINIC 1 ライティングからスピーチへ

自己紹介を手はじめに、自分の言いたいことを英語でスピーチしてみよう。そのためには、次の点に注意しよう。

原稿ははじめから英語で書こう。

英語の発想が大切。「ええ、本日はお日柄もよく」なんて無意味なマクラは英語では不要。ずばり、言いたいことに切り込もう。

1分間に120語を目安に、やさしい英語で。アナウンサーの速度は毎分約180語。でも初心者はその3分の2の速度で十分だ。要は、言いたいことをしっかり伝えること。

大きな声で、はっきり発音する練習を。モジモジしては立派な内容でも台なしだ。

威風堂々。下を見ず、視線は聴衆の左・中・右にまんべんなくゆっくり移そう。

気のきいたことわざや、軽いユーモアをまじえよう。

最後の言葉はしっかり締めよう。これがあとに余韻を残す。That's all. (以上です) では締まらない。今回の例文では、ことわざGather roses while you may.を受けて、口語のcome up roses (思ったよりずっとうまくいく) という表現を使っている。2つともroses (バラ) で締めたのも女性らしくおしゃれた。